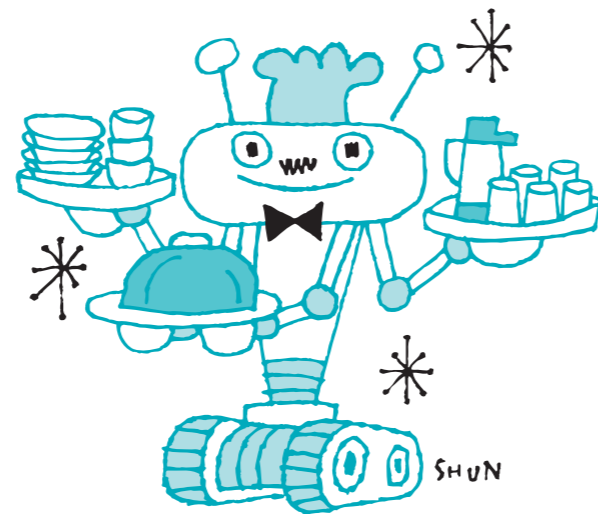


在宅でも

ロボット介護



介 護ロボ導入で報酬アップー。この4月、そんなニュースが流れてきました。政府は開発から普及へアクセラを踏んでおり、ロボット介護の時代が来るのもそう遠い未来ではなさそう。施設での活用というイメージが強いですが、実は在宅でも大きな可能性が広がっています。見守りはもちろん、人工知能（AI）でケアプランなんていう話も。ケアのあり方まで変えるかもしれない？課題は？ロボット介護を考えます。

政策は開発から 実用化のフェーズに

介護ロボットが大盛り上がりだ。と言っても、見たこともさわったこともないという人は多いのでは？

そこで、質問です。「介護ロボット」って何ですか。

まさきに「鉄腕アトム」をイメージした人も少なくないかもしれない。気は優しくて力持ち。人間以上に自在に動きまわる、あんなロボットがあったら楽しいが、残念ながらまだ遠い。

経済産業省の「ロボット政策研究会中間報告書（2006年5月）」では、ロボットを「センサー、駆動系、知能・制御系の3つの技術要素（ロボットテクノロジー）を有する機械システム」と定義している。センサーで感知して、コンピュータが判断し、アクションを起こす。そんな機能があれば、手足がなくてもロボットだ。

けて、持ち上げるときの負担を軽減する（p.10参照）。おそらく、ビジュアル的にもっともロボットのイメージに近いからだ。介護者が使うだけでなく、患者がリハビリで足を動かすことをサポートするタイプのものもある。

実は、重点分野の中でもっとも多いのが「見守り」だ。センサー技術の進化はめざましく、ITと組み合わせることで遠隔地でも、離れている人の状態をきめ細かく把握できる。ベッドから起き上がった状態を把握し、ベッドから転落したり、立ち上がろうとする危険があるかを予測、介護職員のスマホに知らせてくれるものも。誤報も多いし、鳴ったときにはとさきすでに遅いこともある。ベッドマットの超進化形と言えるだろう。

5分野8項目の重点項目で 開発に注力

現在のブームのきっかけとなったのが、2013年6月に閣議決定された日本再興戦略に「ロボット介護機器開発5か年計画」が策定されたこと。技術大国の日本。高齢化の弱みを強みにかえて、世界に売り込めるロボット技術を搭載した介護機器の開発が目指されている。

どんな機器が開発されているのだろうか。経済産業省が厚生労働省と連携して2013年度から行っている「ロボット介護機器開発・導入促進事業」では、「移乗（装着、非装着）」「移動（屋内、屋外）」「排泄」「入浴」「見守り」を重点分野とし、年間20億円の補助を行ってきた。

メディアでよく取り上げられるのは、「装着型」。腰につ

図 介護ロボットに関する国の政策

年度	担当省庁など	事項
2012年度	経済産業省 厚生労働省	「ロボット技術の介護利用における重点分野」を策定
2013年度	閣議決定	日本再興戦略
	経済産業省	ロボット介護機器開発・導入促進事業（平成2013年度～）
	厚生労働省	福祉用具・介護ロボット実用化支援事業（平成2013年度～）
2014年度	経済産業省 厚生労働省	「ロボット技術の介護利用における重点分野」を改訂
	閣議決定	「日本再興戦略」改訂2014
	ロボット革命実現会議	「ロボット新戦略」を策定
2015年度	厚生労働省	介護ロボット導入支援事業（平成2015年度～）
2016年度	厚生労働省	介護ロボット開発等加速化事業（平成2016年度～）
	厚生労働省	介護ロボット等導入支援特別事業
	閣議決定	ニッポン一億総活躍プラン
2017年度	厚生労働省	介護ロボット導入支援及び導入効果実証研究事業
	未来投資会議	新たな医療・介護・予防システムの構築に向けて